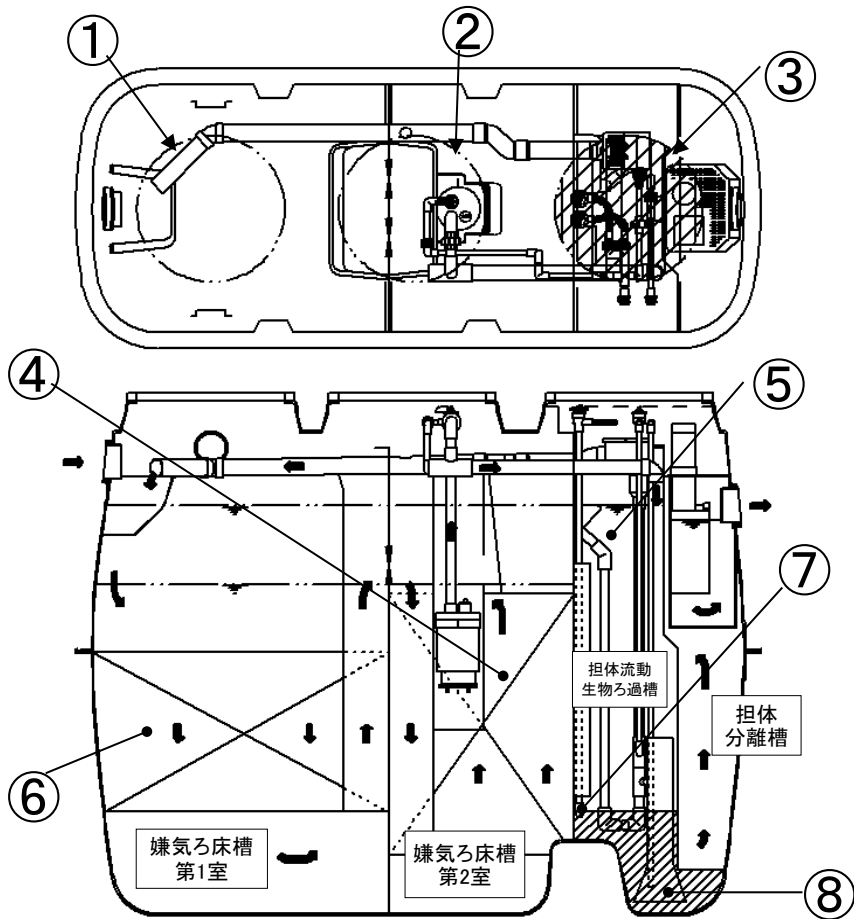
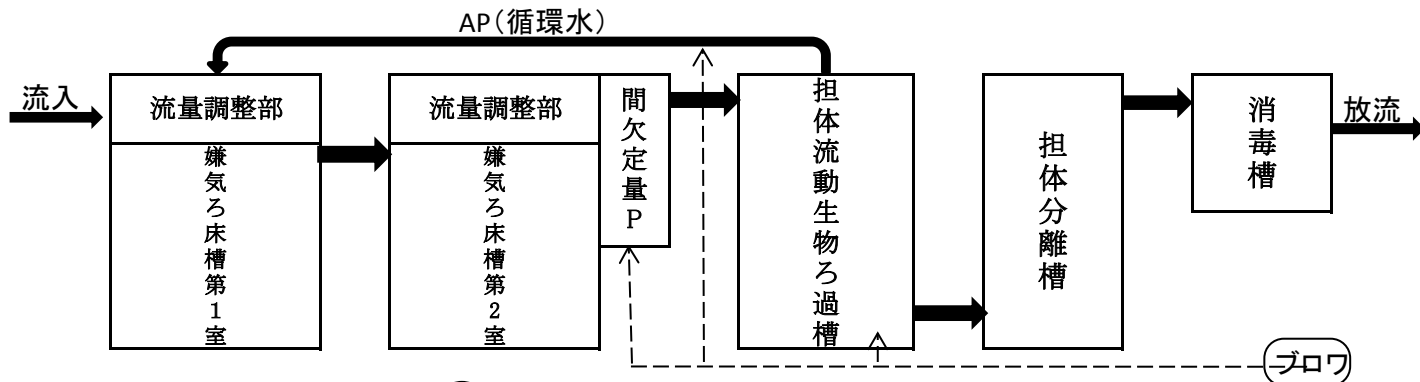


KRN (株)ダイキアックス
 OEM: なし
 共同開発: なし
 処理方式: 流量調整型嫌気ろ床担体流動生物ろ過循環方式
 5・7・10人槽

窒素除去型

全浄協登録値

BOD	SS	T-N
20mg/L以下	—	20mg/L以下
性能評定または性能評価値		
BOD	SS	T-N
20mg/L以下	—	20mg/L以下



- ①嫌気ろ床槽第1室
- ②嫌気ろ床槽第2室
- ③担体流動生物ろ過槽
- ④嫌気ろ床槽第2室ろ材
- ⑤担体
- ⑥嫌気ろ床槽第1室ろ材
- ⑦散気管
- ⑧逆洗管

有効容量 (m ³)		5人槽	7人槽	10人槽	
槽名	嫌気ろ床槽 第1室 (L. W. L)	0.817	1.130	1.573	
	嫌気ろ床槽 第2室 (L. W. L)	0.545	0.758	1.261	
	〈流量調整部〉		0.334	0.480	0.715
	担体流動生物ろ過槽	0.311	0.425	0.545	
	担体分離槽	0.130	0.194		
	消毒槽	0.023			
合計		2.160	3.010	4.311	

槽底部からろ材受け面までの距離(mm)	第1室	350
	第2室	200

流量調整機能	間欠定量ポンプ(流調用)バルブ開度(%)						循環装置	循環用エアリフトポンプバルブ開度(%)						散気バルブ	担体分離器
	有	5人	40	7人	45	10人		55	有	5人	35	7人	40		

人槽	ブロウ風量(ℓ/分)	逆洗風量(ℓ/分)	逆洗時間(分)	逆洗時刻	逆洗回数(回)	逆洗周期
5・7	80×2口	80	5	-	1	2時間
10	100×2口	100				

[人槽に対する流量調整水量・循環水量の設定範囲]

人槽(人)		5	7	10
流量調整装置	移送水量(ℓ/分)	3.6	4.4	6.3
間欠定量ポンプ	1サイクル時間(秒)	19	14	10
循環装置	移送水量(ℓ/分)	2.4	2.9	4.2

特 徴

嫌気ろ床槽 第1室、第2室にはそれぞれ長さの異なるヘチマ様円筒状ろ材(1室: φ150×150mm、2室: φ150×75mm)が充填されている。流出水は第2室に設置された間欠定量ポンプにより揚水され、担体流動生物ろ過槽へ移送される。槽上部は流量調整部となっている。

担体流動生物ろ過槽 PEG製の球状担体(粒径約5mm)が充填され、担体が流動してBOD除去と硝化反応が進行する。槽底部には担体の一部が堆積し、ろ過部を形成する。流出水は担体分離槽へ移流する。ろ過部の担体は閉塞防止の為、タイマー制御により自動逆洗される。担体流出防止の為の押さえ等は設置されていない。

自動逆洗 逆洗管への送気によりろ過部の担体が攪拌され、SSが剥離する。剥離汚泥は槽内水と混合され、循環水と同経路で嫌気ろ床槽第1室へ移送される。

担体分離槽 担体流動生物ろ過槽からの流出水が上向きに流れ、消毒槽へ移流する。同時に槽内水に伴って担体流動生物ろ過槽から流出した担体が沈殿分離される。

作 業 時 の ポ イ ン ト

保守点検

- ①流入水量:移送水量:循環水量が1:4.5:3になるように、間欠定量ポンプの移送量と循環水量を調整してください。(上表参照)
- ②担体流動生物ろ過槽内の担体流動量を確認して下さい。槽内水を1ℓ採取し、沈殿した担体の容積率を測定してください。(3回程度) ばっ気時7~10%、逆洗時15%が適正です。
- ③ブロウの逆洗設定を必ず確認してください。出荷時の初期設定では2時間間隔で5分間となっているので、通常運転時は12時間間隔、各15分間逆洗に設定を変更してください。
- ④担体分離器(スクリーン)の掃除を必ず毎回行ってください。

清掃

- ①嫌気ろ床槽第1室は、全量引き抜いてください。
- ②担体分離槽にスカムがある場合は、柄杓等で嫌気ろ床槽第1室へ移送してください。
- ③担体流動槽と担体分離槽に、バキュームホースを入れ、担体を引き抜かないでください。